

# 令和3年度 学校研究 vision

## I これまでの成果と課題



- ◎「探究パラダイス」というキーワード（目標）を学校全体で共有し、「なるほど、そういうことか。」という言葉や思いを引き出すような授業展開を工夫することができた。
- ◎「対話」「情報活用」「課題発見」という児童に付けたい3つの汎用的な資質・能力を設定し、児童にその資質・能力が付くように意図しながら、学習活動を展開することができた。
- ◎GIGAスクール構想を先取りし、児童がツールの一つとして、ICT機器を活用しながら学習することができた。



- ▲児童の学びが深まったか、取り組んできたことが効果的であったかを**検証する機会**を、定期的に確保できていない。
- ▲PDCAサイクルが不明確であり、目的（育成を目指す資質・能力）と手段（研究の重点）と工程（学力向上ロードマップ）が効率よく連動できていない。
- ▲研究授業及び研究授業に関わる単元についての取組に工夫はあるが、研究の重点として取り上げていることが**日常的な取組**になっていない。

## II 今後の研究のポイント



### 探究

深い学びを創造するような単元デザインを構築し、児童が自ら探究する力の育成と学力向上を目指す。



### GIGA

GIGAスクール構想の実現に向けて、児童生徒の見取りやその見取りを生かした教師の手立てをふまえた**授業改善**を研究していく。



### 日常化

日常的に継続できるような共通実践を積み上げ、**検証・分析**につなげる研究を行っていく。

## III 今年度の事業

- (1) 県指定「GIGAスクール構想の実現に向けた教員のICT活用指導力強化事業」の推進校
  - ・児童生徒1人1台端末等ICT機器を活用した授業の研究
  - ・研究成果の発信（授業動画3本、研究発表会の実施）
- (2) 県下一斉「GIGA 校内研修」
  - ・学習場面における児童のICT活用の促進。
  - ・全体での研修会、学年や教科等のまとまりでの研修会、若プロでの研修等
- (3) 文科省委託「学びの保障・充実のための学習者用デジタル教科書実証事業」の参加校
  - ・学習者用デジタル教科書を活用した授業の実践（1～6年算数科）
  - ・アンケートの回答

## IV 研究主題・副題

研究主題 自ら進んで探究する児童の育成  
副題 ～効果的なICT活用を通して、「なるほど、そういうことか。」を引き出す～

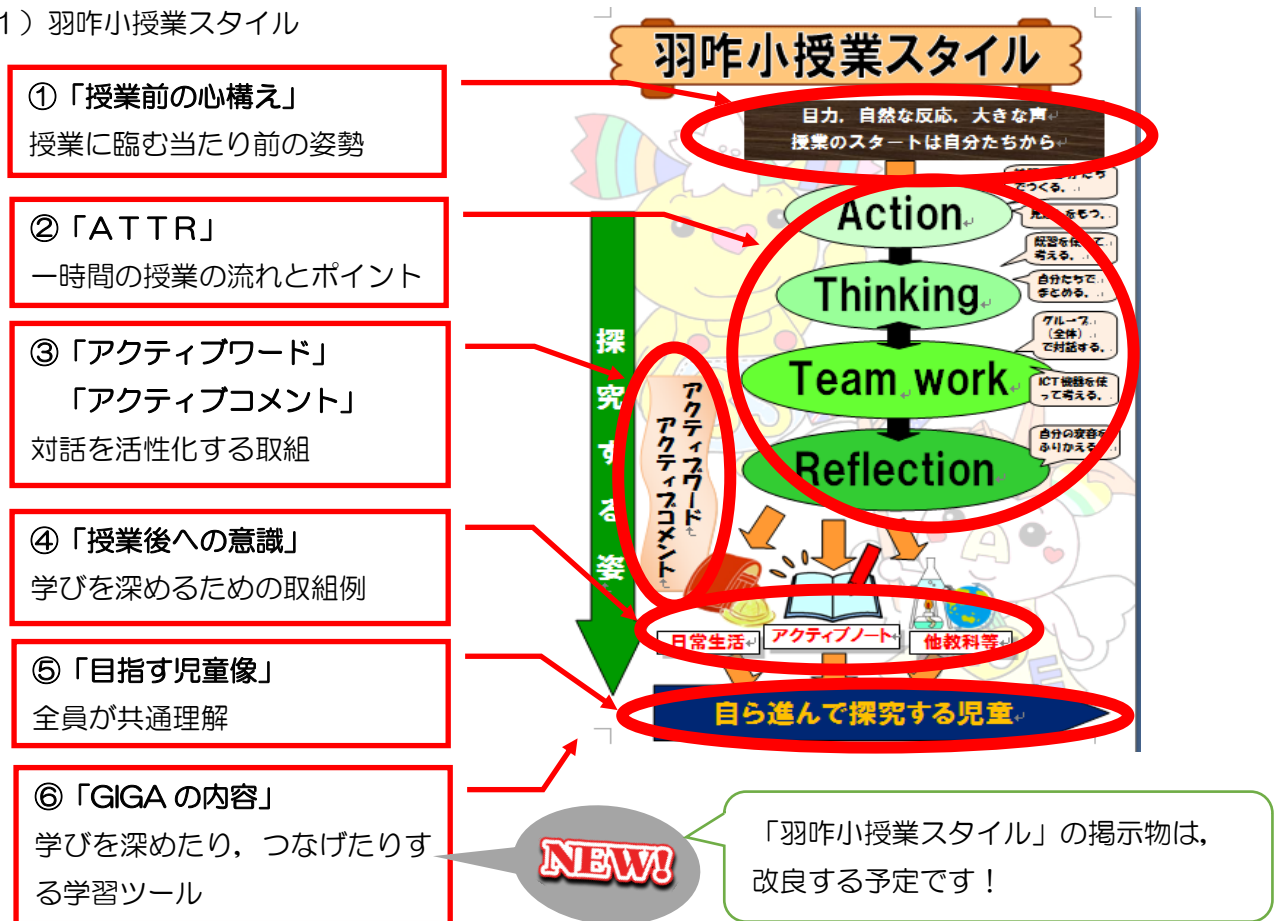
### 【研究仮説】

教師が、GIGA スクール構想の実現に向けて、ICT 機器の活用を基盤とした授業改善を日常的に図り、児童が、汎用的な資質・能力を発揮しながら深い学びを実現する学習を行う。そうすることで、主体的に学ぶ態度が養われ、目標達成に向けて、自ら進んで探究する児童を育成することができるであろう。

## V 取組の内容

### 1 「主体的・対話的で深い学び」への授業づくり

#### (1) 羽咋小授業スタイル



#### (2) 「ATTR+G」の工夫

展開	工夫例
Action (導入)	映像, 写真, 資料 (史料), 既習 等
Thinking (自力解決 or 深める場面)	問題 (課題), 発問, 表現活動, 個への支援, 見取り, 価値付け 等
Team work (学び合い or 深める場面)	問題 (課題), 発問, 表現活動, 形態, 見取り, 価値付け, 板書 等
Reflection (振り返り)	他教科との関連, 経験, 変容 等
GIGA (ICT 活用)	資料 (史料) 提示, ワークシート (学習カード), 共有, 対比 等

**NEW!**

(3) 年間の流れ



2 研究の重点

First round (4~7月)

	☑ 探究	☑ GIGA	☑ 日常化
視点	児童は、算数科を基盤とした授業を通して、「対話」「情報活用」「課題発見」の資質・能力が育ったか？	児童は、「個別最適な学び」と「協働的な学び」のある授業を通して、「なるほど、そういうことか。」という思考をもったか？	児童は、研究の重点として掲げたことを、日々の授業で発揮していたか？
手段 (Do)	①付けたい汎用的な資質・能力の具体を明確にし、②見方・考え方をふまえた授業デザインを行う。	ICT 機器を活用した授業を行い、③ATTR別の手立てを洗い出す。	GIGA 構想をふまえた授業を行った際、週案に④記録する。
検証方法 (Check)	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究授業 (Jam board, Forms を活用)</li> <li>ハピネスラブレター</li> <li>アンケート調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレット端末の活用場面の整理</li> <li>アンケート調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>週案に G マーク</li> <li>アンケート調査</li> </ul>

【手段 (Do) の詳細】

①付けたい汎用的な資質・能力の具体

	低学年	中学年	高学年
対話	相手の考えを聞き取って、自分なりの反応を返す力	相手の考えを自分の言葉にして説明する力	自他の考えを比べ、聞いたことを取り入れて、自分の考えを語る力
情報活用	課題解決に向けて、情報を収集・選択する力 (*B-2, B-3)	目的に合わせて、必要な情報を収集する力 (*B-5, C-4)	複数の情報を統合して整理する力 (*B-9, C-7)
課題発見	困ったことや気になることから課題をつくる力	弱点から課題を見つけ、取り組む力	自分の課題を見つけ、見通しをもったうえで、改善していく力

(「羽咋小版 情報活用能力段階表」参照)

②見方・考え方を働かせた深い学びのある授業デザイン

ア) ゴールの姿（教科の価値）を明確にする。

「単元(授業)終了後、子どもたちにどんな力を身に付けてほしいのか？」

イ) 児童の現状を把握する。「今、子どもたちはどんな見方・考え方を身に付けているのか？」

ウ) 探究への手立てを考える。「どんな手立て(課題提示、発問、活動等)をすれば、深い学びになっていくのか？」

エ) 必要となる資質・能力について検討する。「深い学びに向かうために、必要な資質・能力はどんな力か？」

(中能登教育事務所作成令和2年度「深い学び」シリーズを参考)



③A T T R別手立て

「Action」「Thinking」「Team work」「Reflection」の場面で、どのような ICT 活用が効果的であるかを探る。

④GIGA スクール構想をふまえた ICT の活用場面 (G マーク)

ICT 機器を活用した授業を行った際、週案に G マークを付ける。その際、ICT 機器を活用した学習場面が「個別最適な学び」「協働的な学び」のどちらに当てはまるのかを区別しておく。

	理科	社会	総合	たことや思いをもつことができる。(態)
ト	長田先生	戦国の世から天下統一へ必要な情報を集め、読み取り、豊臣秀吉が世の中を支配する仕組みをつかって天下を統一したことについて理解している。(知)	弥生時代の文化や暮らしぶりを体験し、自分の感じたことや思いをもつことができる。(態)	表元と訳(
連付て	国語	算数		
	みんなで楽しく過ごすために「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながから計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(思)	おぼえているかな既習内容に関する問題を解決することができる。(知)	並べ方と知事象の特徴に着目し、落ちや重なりがないように図や表を用いたり、筋立てて考え、調べ	
	算数	道徳	音楽	

**NEW!**

教科名の横に朱書きで記入。

個別最適な学び → G (個)

協働的な学び → G (協)

【Do アシスト】…学力向上プロジェクトチーム  
 ・ハピネス・カリキュラムを作成する。(過去2年分の実践を一覧に表示)

【Do アシスト】…学力向上プロジェクトチーム → 各学級  
 ・目指す汎用的な資質・能力を児童と共有する。

## Second round (8~11月)

	☑ 探究	☑ GIGA	☑ 日常化
視点	児童は、「対話」「情報活用」「課題発見」の資質・能力を全教科等で発揮していたか？	児童は、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の要素が合わさった授業で、学習意欲が向上し、学力の定着につながったか？	児童は、授業以外の場面でも、自ら進んで学習しようとしていたか？
手段 (Do)	付けたい汎用的な資質・能力の具体を明確にし、見方・考え方をふまえた授業デザインを行う。	ATTR 別の手立てを参考にし、⑤児童が学びを深めていることが分かる授業を展開する。	⑥授業以外の場面での活用についての実践を行い、まとめる。
検証方法 (Check)	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究授業 (Jam board, Forms を活用)</li> <li>ハピネスラブレター</li> <li>アンケート調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート調査</li> <li>各種学力調査結果</li> <li>校内研修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭との連携</li> <li>夏季休業中の実践と実態</li> </ul>

### 【手段 (Do) の詳細】

#### ⑤教科の学びを深める1人1台端末の活用

1時間の授業の中に「個別最適な学び」と「協働的な学び」のある授業を取り入れた教科の本質に迫ることができるような授業改善を行う。校内研修を積極的に開催し、教師同士の情報交換や先進的な取組の情報共有を推進する。

例) 共同編集機能を利用して短時間で効果的に協働学習を行う。

例) アンケートで集約したデータを文章にまとめて発表する等、複数の機能を組み合わせて、短時間で効果的に学びを深める。

(GIGA 校内研修スタートブックを参考)



授業づくりに当たっては、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の要素の組み合わせが考えられる。授業の中で、「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、さらにその成果を「個別最適な学び」に還元する等、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に実現し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくことが必要である。

(令和3年1月26日中教審答申より抜粋)

#### ⑥授業以外の取組

ア 朝の活動 例) 健康観察、一日のめあてと振り返り等

イ 特別活動 例) 委員会活動、クラブ活動、行事での活用等

ウ 家庭学習 例) 個別最適化を目指したドリル学習、次時に備えた予習、日記等

**NEW!**

【Do アシスト】…ICT プロジェクトチーム

・タブレット型 PC を活用した家庭学習の方法を、発達段階に応じて紹介する。

## Final round (12~3月)

	☑ 探究	☑ GIGA	☑ 日常化
視点	児童は、これまで学んできたことをふまえ、自分の考えを表現できたか？	児童は、目的に合わせてICT機器を活用し、自分の考えを表現できたか？	児童は、端末を文房具の一つとして自在に使えることができたか？
手段 (Do)	⑦自分の考えや思いを個別でまとめ、発表する。	教科の学びや社会課題等の解決、自分の夢の実現につなげる。	目的や用途に合わせて、主体的に端末の使用を選択する。
検証方法 (Check)	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活科、総合的な学習の時間でのプレゼンテーション発表</li> <li>アンケート調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活科、総合的な学習の時間でのプレゼンテーション発表</li> <li>アンケート調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート調査</li> </ul>

### 【手段 (Do) の詳細】

#### ⑦プレゼンテーション力の育成

端末を活用し、**自分の考えや思いを表現**したプレゼンテーションを3学期に行う。1、2年生は生活科、3～6年生は総合的な学習の時間で実施する。

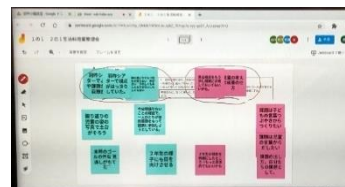
**NEW!**

## 3 その他の取組

### (1) 研究授業

#### ①Google「Jamboard」による授業評価

従来の付箋による成果と課題の書き出しから、Chromebookを活用した授業評価を行う。ATTRの場面にそって、成果と課題を色別シートで送信し、参観者は**リアルタイムで意見を共有**する。



#### ②Google「Forms」による授業後評価

授業後評価として参観者のアンケート調査を実施する。Chromebookを活用し、**グラフ化した評価**を授業整理会で活用できるようにする。

#### ③授業整理会

「Jamboard」「Forms」を駆使し、**授業改善**のヒントを導き出す。

#### ④学校研究だより

研究授業後、授業者は、速やかに考察を含めた研究だよりを作成する。**自身の授業の振り返り**を行うことで、授業改善に結び付ける。さらに、全教員へ**還元**することで、効果的な指導等を共有する。



これまで本校が行ってきたアクライズシステムは休止する。アクライズの目的は、教師の話し過ぎを抑え、児童の発言を引き出す授業改善である。本校のこれまでの実践から、児童主体の授業づくりの土台が身に付いていると考えられるため、アクライズを休止し、研究授業では、教師のさらなる**授業力アップ**の協議を行う。

## (2) 期間限定

### ①相互授業参観（ハピネスラブレター）

設定した**授業の視点**をもとに授業を評価し、教師の**授業力の向上**を図る。

**NEW!**

### ②GIGA 全集中週間

GIGA スクール構想の実現を大きく進めるために、**全員で ICT 機器を活用した授業**に意図的に取り組んだり、**GIGA 研修**を集中的に取り入れたりする。

### ③学習アンケート【対象：児童】

学習アンケートを**年4回**に行い、変容を見る。アンケート実施後は、児童に還元し、アンケートの回答の理由について交流し、実態把握や意欲向上につなげる。

## 4 学校研究を支える基盤づくり

学力向上	ICT	道徳教育	英語教育
<ul style="list-style-type: none"><li>・アクティブノート</li><li>・相互授業参観（ハピネスラブレター）</li><li>・ハピネス・カリキュラム</li><li>・学力向上ロードマップ</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・GIGA校内研修</li><li>・Chromebook</li><li>・オンライン</li><li>・端末の持ち帰りによる家庭学習</li><li>・プログラミング</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・情報モラル</li><li>・出張道徳</li><li>・板書コーナー</li><li>・道徳ファイル</li><li>・ハピネスト（SST）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・英検・Jr.英検</li><li>・環境整備</li><li>・朝自習の取組</li><li>・リスニング強化</li></ul>

## 5 指導改善を進める体制づくり

### (1) 低・中・高学年部会による授業づくり **（学びの指針1, 2, 3）**

児童の発達段階を考慮し、指導体制の工夫と評価の仕方を研究する。

### (2) 4つのプロジェクトチームによる基盤づくり **（学びの指針4, 5, 6, 7, 8）**

4つのプロジェクトチームを連動させることで、組織的に基盤づくりを行う。

### (3) 校内研修会（OJTを含む）の実施 **（学びの指針10, 11）**

3つの部会と4つのプロジェクトチームの横のつながりを保ち、共通理解を図るための校内研修会を積極的に行う。若プロの研修も積極的に行い、1人1回、メンターとしての講師を務める。

### (4) 幼保小中連携や小小連携 **（学びの指針10, 12）**

幼稚園・保育所や中学校、また先進校との連携を図り、指導改善に努める。

### (5) 通信や授業参観等による保護者・地域との連携 **（学びの指針9, 10, 12）**

定期的に発行する通信や学校報、ゲストティーチャーを招く授業、保護者へのアンケート調査等、地域に開かれた学校を目指す。